

第212回 令和8年4月16日（木）

「無意識に発する言葉の怖さ」

かなり昔になりますが「リング」という映画が流行って「サダコ」というお化けが子どもたちを怯えさせました。映画を私も見たことがあります、とてもインパクトがあってしばらく忘れられない映像でした。

作品に罪はないのですが、そのあとその名前が怖い幽霊の代名詞のようになってしまいました。同じ名前的人也いたと思いますが、悪気なく無意識に連呼される名前の中で、嫌な思いをした人もいるかもしれません。

JICAの象徴ともなっている元国連大使の緒方貞子さんも同じ名前です。決して悪いお名前ではありません。

歴史上有名なドラキュラですが、これもトランシルバニアの伯爵のお名前です。バンパイア＝吸血鬼を扱った作品名があまりに有名になりすぎて、ドラキュラ自体が固有名詞のようになってしまいました。ドラキュラ家の方にはとんだ迷惑だったと思います。

コロナウィルスが流行したとき、コロナという会社の方やコロナビールを販売している業者は誹謗中傷を受けたそうです。もちろん会社名や商品名がウィルスから由来してつけられているわけではありません。

またコロナウィルスは「インド株」「ブラジル株」など変異するたびに国名をつけられたことがありました。その国の出身者はいわれのない差別を受けてしまうことになり、のちに「アルファ株」「ベータ株」などと呼び名が変わりました。

ある国の大統領は悪意を込めてコロナウィルスを「中国ウィルス」とか「武漢ウィルス」と呼んでいました。これは論外としても、無意識に誰かを傷つけてしまうことはあるということを実感したほうが良いと思います。

人名を用いる場合は近くで嫌な思いをするような人がいないか、感じるセンサーを持つておくことが大事です。外国につながる方も増えているので、会話で他の国を誹謗中傷するような内容は話すべきではないでしょう。

気をつけていても差別につながってしまうことはあります。それでも日常から気をつけているという心持ちが差別を減らすことにつながります。

無意識に他人を傷つけてしまっていないか、たまに点検してみることが大事です。